

令和元年度 町田・デザイン専門学校 学校関係者評価委員会報告書
(平成31年4月～令和2年3月)

●開催日時 令和2年3月24日(火) 15:30～17:00

●町田・デザイン専門学校

●学校関係者評価委員

- ・企業代表：株式会社キタセツ 代表取締役 北川 拓氏
- ・地域代表：町田商工会議所副会頭、町田相模原経済同友会副代表
細野 泰司氏
- ・職能代表：就採研グループ CEO 浦部 衛仁氏
- ・卒業生代表：株式会社エンテ代表取締役 鴨志田 功氏
- ・高等学校代表：学校法人光明学園相模原高等学校 校長 清水 尚人

●学校側教職員

- ・井上 博行 校長
- ・小笠原 武美 常務理事
- ・飯田 有登 教頭
- ・舘池 啓孝 校務課長
- ・茂木 亮 キャリアセンター長
- ・稲田 有宏 創造開発室 室長

●自己評価報告と学校関係者評価・意見・対策について

(1) 教育理念・目的・育成人材像

<報告>

- ・本学の教育目的は、「デザインを通じて社会に貢献する人材を育成する。」
- ・平成25年から本学として基本理念として「教育目標・基本理念」とともに示され、それらを踏まえて教育課程編成方針がなされ、整いつつある。それらは適宜、募集要項、学校HP、各会議資料等で明記しており、教職員、外部に対して告知している。

<評価・意見>

特になし

<対応>

- ・教育課程編成委員会を中心に、学識経験者や企業との間で、カリキュラムミー

ティングを行い、時節にあった教育内容に近づけるべく研鑽を積んでいく。

(2) 学校運営

<報告>

年度毎の経営方針および中期報告を踏まえ、各部門におけるPDC A計画を工程表とともに立てられており、各主要会議など職員相互で報告・確認作業を行っている。教職員・非常勤講師対象の全体会・分科会、年2回開催される校務運営会議で周知チェックしているが、理解度、浸透度については、方針の転換、手法の変化に伴い、後手に回ることもある。

<評価・意見>

昨年に続き、貴校の自己点検表を拝見し、非常に細かい取組を行われていると感じる。今後もこのような取り組みを継続していただきたい。

<対応>

業務のスピードアップを図り、PDC Aの精度をより高く回していく必要あり。

●教育活動

(1) カリキュラム (教育課程)

<報告>

- ・教育課程は、学科毎にその特色を活かしつつ作成できるように、教育管理体制を整えている。具体的には学科において出されている教育編成を校長と教頭でとりまとめ、各学科長とチェックをしている。学科においては、分科会等で講師の先生ともコミュニケーションを取り、時代の流れを取り入れながら編成している。また昨年度より学群ごとに「教育課程編成委員会」を年2回開催して質の担保を図っている。

<評価・意見>

- ・新しい技術をどんどん授業に取り入れて欲しい。
- ・常に新しいことに挑戦していこうとしている気概を感じる。
- ・以前は少なかったが、コンペに参加し、多くの賞を取っている。
- ・外部の意見をよく吸収しているという印象

<対応>

- ・「教育課程編成委員会」・「学校関係者評価委員会」を有効利用して、教育現場に意見を反映させながら、教育力の向上を図っていく。

(2) 資格・免許取得の指導体制

<報告>

- ・各学科において推奨資格を明確に定めている。(コミック学群を除く)
- ・建築系：建築士受験認定校として建築士講座を設けている他、各種試験対策を選択科目で行っている。
- ・ビジュアル系：本来資格は不要な分野だが、就職活動や学習の成果として、任意で検定を受験させている。
- ・コミック系：コミック学群として資格取得の重要性は他の学科と違うため、資格については特に対処はしていない。

<評価・意見>

- ・建築業界では国家資格取得が必須条件である場合が多いので、資格取得の強化を図ってほしい。
- ・高い就職率に比べると、資格取得率は低いように感じる。

<対応>

- ・現在、継続して比較的取りやすく自信をつけさせるための「チャレンジ資格」と、相当勉強しなければ取れない「エキスパート資格」に分け、少しずつ資格取得を目指すモチベーションを上げていくように取り組みを行っている。

(3) 実学実習等

<報告>

- ・本年度もさらに実学実習には力を入れ、自治体・企業・団体等との産学連携による活発な活動実績および受賞実績を数多く残し、一部はパブリシティ(新聞・Web)にも取り上げられた。実学実習は合計24件、コンペ関連は50件にチャレンジしている。

<評価・意見>

- ・以前に比べて、かなり積極的に実学実習やコンペ挑戦をされているので、今後とも力をいれて取り組んでいただきたい。
- ・学生時代のコンペ挑戦はかけがえのない財産になるので、ぜひ積極的に挑戦してもらいたい。

<対応>

- ・実学やコンペへの取り組みを通して、個々のモチベーションアップおよびレベ

ルアップが図れるよう取り組んでいく。

●学修成果

(1) 就職率

<報告>

1年次より授業内に就職関連授業を組み込み、毎年就職率は向上している。就職希望者に対して、就職率100%を目標にしているが、コミック・まんがなどのデビュー系の学科に関しては、デビュー組と就職組に分かれて指導を行っている。就職後の対応として、卒業生が入社した企業には必ずキャリアセンタースタッフが定期的に訪問し、状況や動向を把握している。企業からの評価は概ね良好である。

<評価・意見>

- ・デビュー系の学科の学生に対する就職サポートはとても良いと思う。
- ・非常に真面目な学生が多い。
- ・キャリアセンターがアフターフォローをしっかりとやっている。

<対応>

- ・引き続き就職先・求人企業とのパイプ強化、就職塾の内容充実を図るとともに、キャリアセンタースタッフが積極的に企業訪問を展開し、学生フォローと求人開拓を行っていく。

●学生支援

(1) 就職支援

<報告>

就職支援はキャリアセンターを中心に各学科と連携。学生の就職希望・活動動向など情報の共有に努め、データ管理を行い、連携は取れている。関連企業とは年6回の合同企業説明会、個別企業説明会、キャリアアドバイザー、企業交流会、リレー模擬面接会等を実施し、併せて保護者就職説明会も実施している。またカリキュラムに就職関連授業を導入し、履歴書の書き方、面接指導と、就職活動のノウハウに関する指導を行っている。課題としては企業の求める人材像の上位を占める「コミュニケーション能力」をいかに向上させていくかが課題である。

<評価・意見>

- ・発信が苦手な学生が多いように思うので、もともとの素直さを発信できる力を身につけさせることが大切。

- ・傾聴、滋養、共感が必要。

<対応>

- ・元気よく自分から発信できるような学生を育成するために、気軽に自分の意見を言えるような環境作りが必要。

(2) 退学率

<報告>

- ・中途退学者への対応として、校務課、各担任、校長面談を実施。担任による指導シートを保存。また経済的要因に対しては、延納、分納の説明および日本学生支援機構の奨学金の説明を随時実施。

<評価・意見>

- ・日本学生支援機構の奨学金以外に、学校独自の奨学金制度はあるか

<対応>

- ・入学時のAO、指定校推薦、スカラシップ制度といった学費減免制度や、入学後の新芽奨学金制度などがある。

(3) 学生相談

<報告>

- ・カウンセラーを置き、カウンセリングルームにて週1回予約制を実施し、一定の成果を得ている。カウンセリングの告知は、校務課が校内へのポスター告知や、口頭での告知を実施。カウンセラーは個別に報告書を作成し、校務課が管理している。

<評価・意見>

- ・カウンセリングは週1回で対応は可能か

<対応>

- ・カウンセリングの回数は課題となっているので、回数を増やす調整を図るとともに、校務課、担当、教頭が連携を強化して、学生対応を図っていく。

●教育環境

(1) 学外実習・インターンシップ・海外研修等

<報告>

- ・学外実習については、各学科が企業、地域と取り組んでおり、その実践的教育効果も高い。
インターンシップ（企業研修）に関しては積極的に取り組んでいる。インターンシップ先企業の開拓から実施に向けての打ち合わせ、実施後の評価に至るまでキャリアセンターが対応。キャリアセンターでは授業カリキュラムの一環でおこなうもの、就職活動の一部として行うものを区別して実施している。

<評価・意見>

- ・学生数に対する受け入れ企業数は充足しているか
- ・よく調べないでインターンシップ先の企業を選んでいる学生が多い
- ・企業が事前に学校に来てPRして学生に選ばせたらどうか
- ・インターンシップは企業研究ではなく、業界研究をさせることが重要

<対応>

インターンシップの受け入れ先企業が不足しているので、キャリアセンターを中心に企業開拓の強化を図る。

●学生募集

<報告>

前年度の8月より次年度の募集計画（募集目標・予算・学校案内・広報媒体・ガイダンス・イベント等）を立て、募集活動に取り組んでいる。結果として毎年、学生数は増えている。

<評価・意見>

特になし

<対応>

反響者の職業理解が進み、正しい進路選択が出来るよう、より分かりやすい学校案内、体験イベント等を企画して取り組んでいく。

●財務

<報告>

- ・確固たる経営基盤構築のため、安定した入学者の確保を図るとともに、人件費、広報費等は明確な事業計画のもと、予算、収支計画を立案して執行しており、監査は私立学校法及

寄附行為に基づき、適切な監査を実施している。

<評価・意見>

・特になし

<対応>

・収支計算書からキャッシュフローを重視する事業計画を策定する。

●法令等の遵守

<報告>

・関係法令及び設置基準等に基づき学校運営を行っており、必要な諸届等は適切に行っている。また学校運営に必要な規則・規程等は整備して適切に運用している。

<評価・意見>

特になし

<対応>

引き続き学校全体で法令遵守を心掛けていく。

●社会貢献・地域貢献

<報告>

・産学・行政・地域との連携推進は中長期計画の中に謳われている。町田市の生涯学習センターや大学と連携した実学実習「マチコレ」を毎年開催している。施設の提供は、要請があれば積極的に対応している商工会議所主催の検定試験会場として、学校施設を開放している。また他団体「町田少年少女発明クラブ」等にも開放し、地域社会に還元している。

<評価・意見>

特になし

<対応>

今後も地域社会に開かれた学校として、積極的に地域貢献に取り組んでいく。

以上